



令和4年度(第77回)文化庁芸術祭主催公演
新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ
G.F.ヘンデル

ジュリオ・チェーザレ

Giulio Cesare

<新制作>

2022年10月2日(日)~10月10日(月祝)

会場:新国立劇場オペラパレス 2022年8月7日(日)前売開始



パリ・オペラ座公演より Photo: Agathe Poupeney

壮麗・洒脱なバロック・オペラの華『ジュリオ・チェーザレ』、コロナ禍を経ていよいよ上演！

新国立劇場のバロック・オペラシリーズ第1弾として大注目の集まる中、2020年3月にリハーサルが無念の中断、公演中止となった『ジュリオ・チェーザレ』が、2年半の時を経て、いよいよオペラパレスへ登場します。

凝った仕掛けを多用し、歌手が次々技巧を披露する一大エンターテインメントとして隆盛を極めたバロック・オペラ、その中でも大作曲家ヘンデルの最高傑作にして絢爛たる歴史スペクタクル『ジュリオ・チェーザレ』を、ロラン・ペリー演出版で上演します。2011年パリ・オペラ座ガルニエで初演されたペリー版は、現代のエジプトの博物館のバックヤードを舞台に設定、巨大な彫像や絵画が次々に現れるユーモアいっぱいの演出です。装飾に満ちたバロック的価値観と壮大な歴史劇という作品背景を逆手に取った、大胆かつ秀逸な演出で、21世紀の“バロック祭り”をお楽しみください。

話題の歌手が織り成す、英雄ジュリアス・シーザーをめぐる愛と権力闘争の歴史劇

『ジュリオ・チェーザレ』(ジュリアス・シーザー)は、シーザーとクレオパトラの有名な史実の物語。チェーザレ(シーザー)、クレオパトラ、トロメオ(プトレマイオス)といった歴史上の人物たちを、バロックに定評あるキーランド、世界で活躍する森谷真理、大注目を集めるカウンターテナー藤木大地らが演じます。指揮にはバロック音楽の第一人者リナルド・アレサンドリーニが登場、まさに必見必聴の贅沢な上演です。今日の音楽シーンを語るには外せない、エポックメイキングな上演をお見逃しなく！

※新型コロナウイルス感染症の影響により、公演内容や招聘スタッフ・キャストに変更が生じる場合があります。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

壮麗・洒脱なバロック・オペラの大作

世界のオペラ界では、20世紀終盤からのバロック音楽ブームを受けてバロック・オペラの魅力が見直され、今や新たな創造的アートとして、作品に新たな光を当てた上演が人気を博しています。大野和士芸術監督は2018年の新国立劇場着任時より、世界的潮流であるバロック・オペラを新国立劇場のレパートリーに取り入れることを表明し、大いに注目されました。

凝った仕掛けによる舞台装置を多用し、カストラート(94年公開の同名の映画で有名)歌手の特殊な声や、バロックならではの装飾的音楽を歌う特殊技巧が次々展開する一大エンターテインメントとして、17世紀から18世紀の欧州各地で爆発的に隆盛を極めたバロック・オペラ。中でも大作曲家ヘンデルの最高傑作のひとつ『ジュリオ・チェーザレ』は、レチタティーヴォで導かれるアリアが次々と展開し、劇的効果と共に多彩な音楽の美しさ、歌手の妙技を存分に楽しめる、絢爛たるスペクタクルです。新国立劇場で上演するにあたり大野芸術監督が白羽の矢を立てたのが、パリ・オペラ座ガルニエで2011年に初演されトリノ王立劇場でも上演された、ロラン・ペリー演出版。現代のエジプト・カイロの博物館のバックヤードを舞台に設定し、巨大な彫像や絵画が次々と現れる、ペリーらしいユーモアにあふれた演出です。装飾と虚栄に満ちたバロック的価値観と壮大な歴史劇という作品背景を逆手に取った秀逸な演出は、まさに21世紀の“バロック祭り”。歴史上の人物が人間臭く描かれ、バロックならではの百花繚乱の世界に観客を誘います。



コロナ禍による公演中止後、2年半を経てついに開幕

2020年4月に予定されていた新国立劇場のバロック・オペラシリーズ第1弾『ジュリオ・チェーザレ』は大きな注目を集め、チケットも発売早々に完売。折しも新型コロナウイルスが拡大し始め、外国人の入国制限が始まる中、招聘キャスト、マエストロ・アレッサンドリーニ、そしてロラン・ペリーら演出スタッフが来日してリハーサルが始まったものの、リハーサル開始後2週間ほどで公演中止が決定しました。この時、最後のリハーサルでいつの日かの再会を誓い合ったスタッフ・キャストがほぼ全員再結集し、2年半の時を経て、ついに開幕に向けて動き出します。

なお、2020年3月のリハーサルでは、最終リハーサルの模様と、指揮者リナルド・アレッサンドリーニ、演出家ロラン・ペリーと大野和士芸術監督との鼎談(トーク)を動画で配信し、大きな反響を呼びました。出演者・スタッフの上演への思いの詰まったこの動画は、現在もご覧いただけます。



【動画】新国立劇場『ジュリオ・チェーザレ』稽古場風景より

<https://youtu.be/rmPHGBvb8Ig>

英雄ジュリアス・シーザーをめぐる歴史劇に話題の歌手が集結！

『ジュリオ・チェーザレ』(ジュリアス・シーザー)は、古代ローマのジュリアス・シーザーと古代エジプトの美貌の女王クレオパトラの有名な史実の物語。野心家でリーダーシップに溢れる一方で情にも色香にも弱いチェーザレ(シーザー)、聡明で勝気、体を張って政局を乗り切りながら一途な恋心も見せるクレオパトラ、クレオパトラと一進一退の争いを続ける策略家の弟トロメオ(ブトレマイオス)、それにトロメオの側近の剛勇アキッラ(アキレス)といった歴史上の有名人が次々登場します。

チェーザレにはバロックで特に評価されるノルウェーのメゾ、マリアンネ・ベアーテ・キーランド、クレオパトラにはメトロポリタン歌劇場をはじめ世界の歌劇場で活躍する日本人ソプラノ森谷真理が出演。トロメオを歌うのは、カウンターテナーとして世界的に活躍する藤木大地。ストーリーの鍵を握るポンペオの妻コルネーリアとその息子セストには加納悦子、金子美香と日本を代表するメゾ二人の豪華コンビ。剛勇アキッラ役は『夜鳴きうぐいす』『イオランタ』で好評を博したバリトン、ヴィタリ・ユシュマノフ。クレオパトラの小姓ニレーノを演じるカウンターテナーの村松稔之は新国立劇場初登場です。指揮にはバロック音楽の世界的第一人者リナルド・アレッサンドリーニが登場。まさに必見必聴の贅沢な上演です。



鑑賞のご参考に…新国立劇場情報センター刊行『バロック・オペラ その時代と作品』

バロック・オペラ鑑賞の手引きに最適！ オペラ誕生からモーツァルトが活躍する以前のバロック期のオペラ 41 作品を、概説とあらすじで紹介する1冊。主要な作曲家の解説、バロック・オペラをよりよく知るためのコラムも充実。

(編・著者: 山田治生 / 著者: 井内美香 片桐卓也 矢澤孝樹 / B5 判 89 ページ / 定価 700 円税別)

※完売につき、新国立劇場ウェブサイト「WEB 資料集」で全文無料公開しています。問: 03-5352-5716 (情報センター)

https://www.nntt.jac.go.jp/centre/library/list/upload_files/baroqueopera2021.pdf

<ものがたり>

【第1幕】ローマの将軍チェーザレは、政敵ポンペオを追ってエジプトへ来る。エジプトの将軍アキッラがトロメオ王からと言い、ポンペオの首を差し出す。悲嘆にくれるポンペオの妻コルネーリア。息子セストは復讐を誓い、チェーザレも暴挙に憤る。その頃クレオパトラは弟トロメオから王座を奪うべく、チェーザレへの接近を図っていた。アキッラはトロメオにチェーザレ暗殺を唆し、報酬にコルネーリアを要求する。クレオパトラが侍女リディアと身を偽ってチェーザレを訪れると、彼はまんまと魅了され、クレオパトラは狂喜する。トロメオは宴にチェーザレを招く。そこへ忍び込んだコルネーリアとセストは捕えられる。



【第2幕】クレオパトラのもとを従者ニレーノの手引きでチェーザレが訪れる。アキッラはコルネーリアに愛を迫るが拒否される。トロメオもコルネーリアを口説くが拒絶される。コルネーリアは誇り高く自害しようとするが、ニレーノに導かれたセストが現れ、命を取り留める。クレオパトラとチェーザレが愛を交わしているとトロメオのチェーザレ暗殺の動きが知らされ、チェーザレは出陣する。



【第3幕】アキッラはクレオパトラへ寝返る決心をする。クレオパトラはトロメオに捕らえられ、絶望している。追い詰められ海へ飛び込んだチェーザレが生還。瀕死の傷を負ったアキッラは、自らがポンペオ殺害を唆し、コルネーリアを得るべくチェーザレ暗殺を諮ったことをセストに告白する。死を覚悟したクレオパトラの前へチェーザレが現れ助け出す。なおもコルネーリアに言い寄るトロメオの前にセストが現れ、ついに復讐を果たす。クレオパトラとチェーザレ、コルネーリア、セストを人々が讃え、幕となる。

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】リナルド・アレサンドリーニ

Rinaldo ALESSANDRINI

イタリア出身の指揮者、ハープシコード、フォルテピアノ、オルガン奏者。ローマの古楽合奏団、コンチェルト・イタリアーノ創立者、音楽監督。スコットランド室内オーケストラ、エイジ・オブ・エンライトンメント管弦楽団、フライブルク・バロックオーケストラ、ボストン・ヘンデル・ハイデン・ソサエティ、フィレンツェ歌劇場管弦楽団、スポレート音楽祭管弦楽団、トスカーナ管弦楽団、トスカニーニ管弦楽団、ボルドー・オペラ管弦楽団、オビエド交響楽団、リヨン歌劇場管弦楽団など世界各国のオーケストラと共演。最近のオペラでは、ウェルシュ・ナショナル・オペラ及びザクセン州立歌劇場『オルランド』、ベルリン・フィルハーモニー及びブリュッセル・ボザールでの『妖精の女王』、ミュンヘンで『見てくれの馬鹿娘』『ツァイデ』(モーツァルト)、ノルウェー国立歌劇場『オルフェオとエウリディーチェ』(グルック)と『フィガロの結婚』、ベルギー王立ワロン歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』などを指揮。ミラノ・スカラ座及びパリ・オペラ座ガルニエのモンテヴェルディ全作ツィクルスも指揮。イタリア音楽、パッサなどの録音も多く、グラモフォン賞など受賞も多い。フランス芸術文化勲章シュヴァリエ受勲。モンテヴェルディの正統的演奏者とみなされており、ペーレンライター版『オルフェオ』『ウリッセの帰還』を校訂している。新国立劇場初登場。



【演出・衣裳】ロラン・ペリー

Laurent PELLY

フランスのオペラ、演劇演出家。『マノン』『サンドリヨン』『ペレアスとメリザンド』『ドン・パスクワレ』『愛の妙薬』『清教徒』『チェネントラ』『椿姫』『ファルスタッフ』などフランス、イタリアの作品から、近年は『金鶏』『3つのオレンジへの恋』『利口な女狐の物語』などロシア、チェコの作品まで手がける。歌手と共に進む演劇的な洞察、シュールな発見や批評的なユーモアセンスによる演出が特徴で、全作品で衣裳もデザインし、舞台美術も手がけることがある。パリ・オペラ座、リヨン歌劇場、メトロポリタン歌劇場、テアトロ・レアル、モネ劇場などの著名歌劇場で活躍。2008年～18年のトゥールーズ国立劇場共同監督在任中に、イヨネスコ『禿の女歌手』、アリストファネス『鳥』、ユーゴー『千フランの報酬』『Mangeront-ils?』、シェイクスピア『マクベス』『夏の夜の夢』などを演出。21年にはメアリー・チェイス『ハーヴェイ』フランス語初演を演出し、コミックファンタジーの手腕を発揮した。オッフエンバックの専門家でもあり、『青ひげ』『パリの生活』『美しいエレース』『地獄のオルフェ』『ホフマン物語』などで数々の賞を受賞、最近ではオペラ・コミック座『月世界旅行』を演出。リヨン歌劇場『にんじんの王様』は16年インターナショナル・オペラ・アワードのベスト・リディスカバード・ワーク賞を受賞、同年の最優秀演出家賞も受賞した。21/22シーズンの新演出には、リール歌劇場『夏の夜』



の夢』、シャンゼリゼ劇場『コジ・ファン・トゥッテ』、グラインドボーン音楽祭のプーランク・ダブルビルがある。進行中の作品に、アムステルダム、ジュネーヴ、バレンシア、ロサンゼルス『チェネレントラ』、テアトロ・レアル、モネ劇場、ボルドー歌劇場、二期会『ファルスタッフ』、サンタフェ・オペラ『フィガロの結婚』がある。新国立劇場初登場。

【ジュリオ・チェーザレ】マリアンネ・ベアテ・キーランド(メゾソプラノ)

Marianne Beate KIELLAND

ノルウェー出身。ハノーファー州立歌劇場専属歌手としてキャリアを始めて以来、17世紀から現代までのレパートリーで活躍し、アントワープ交響楽団、ベルギー国立管弦楽団、ベルゲン交響楽団、イェテポリ交響楽団、ウィーン交響楽団、ベルリン古楽アカデミーなどのオーケストラと共演。バロック・オペラのレパートリーにはパーセル『ディドとエネアス』、アイオステイ『La Fede nei Tradimenti』、フェルナンド、ヘンデル『テルブシコーレ』アポロ、カルダラ『偉大なる名声』エルコーレ、モンテヴェルディ『タンクレディとクロリンダの戦い』などがあり、ファビオ・ピオンティ指揮エウロパ・ガランテではヴィヴァルディ『メッセミアの神託』メローペで世界ツアーに参加。オペラではワーグナー『ラインの黄金』フリッカにも出演。バッハ、ヘンデルからベートーヴェン、シューマン、マーラー、ムソルグスキー、シェーンベルク、ウェーベルン、ベルク、ノルウェーの作曲家シーグル・イスランスモーンなどオペラ、カンタータ、声楽曲 50 以上の CD がある。最近では、オペラ・コミック座でモンテヴェルディ『オルフェオ』スベランツァ／プロセルピナ、ロイヤル・リヴァプール管弦楽団のヘンデル『メサイア』、NDR 放送交響楽団のマーラー「交響曲第 2 番」、ベルギーの古楽アンサンブル、アニメ・アテルナのシューマン『女の愛と生涯』などに出演し、ブダペストのハイドノイム音楽祭、モスクワのハイドン音楽祭、フライブルク・バロック管弦楽団に登場している。新国立劇場初登場。



【クーリオ】駒田敏章(バリトン)

KOMADA Toshiaki

愛知教育大学を経て、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第 11 期修了。研修所公演『ナクソス島のアリアドネ』音楽教諭などを演じている。文化庁新進芸術家海外研修制度にてドイツ・ベルリンに留学。2012 年オランダ・グローニンゲンで開催された音楽祭に『スペインの時』ラミーロ役で出演し、Labberte-Hoedemaker Award を受賞。14 年に小澤征爾音楽塾『子どもと魔法』のカヴァーキャストを務めた後、小澤征爾音楽塾とセイジ・オザワ松本フェスティバルには毎年関わる。歌曲の演奏にも力を入れ、東京・春・音楽祭ではピアニストの小菅優、居福健太郎と共にシェイクスピア作品を取り上げ演奏した。第 83 回日本音楽コンクール(歌曲)第 1 位。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ウェルテル』ジョアンに出演している。22/23 シーズンには『ボリス・ゴドゥノフ』ニキーティチ、『ラ・ボエーム』シヨナルにも出演予定。



【コルネーリア】加納悦子(メゾソプラノ)

KANOH Etsuko

東京藝術大学、同大学大学院を修了後、ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。ケルン歌劇場専属歌手として『フィガロの結婚』ケルビーノ、『蝶々夫人』スズキなど 40 以上の演目に出演。国内では NHK 交響楽団などとの共演や、二期会、びわ湖ホールオペラなどで活躍、びわ湖ホール『ワルキューレ』フリッカ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、東京二期会『ホフマン物語』ミューズ／ニクラウス、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『ワルキューレ』フリッカ、東京二期会『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネなどで高い評価を得る。新国立劇場では『ホフマン物語』ニクラウス／ミューズ、『魔笛』侍女Ⅱ、『ばらの騎士』アンニーナ、『ルサルカ』料理人の少年、『ピーター・グライムズ』セドリー夫人、『サロメ』ヘロディアスの小姓、『セビリアの理髪師』ベルタ、『神々の黄昏』ヴェルグンデ、『アルマゲドンの夢』インスペクターなどに出演している。2013 年 10 月文化庁芸術祭オープニング公演でエルガー『海の絵』を独唱して、高い評価を得ている。ソロ CD「メアリ・スチュアート女王の詩」(ALM RECORDS)は 13 年度レコードアカデミー賞声楽部門受賞。「ドイツ・バロック歌曲」演奏会の成果などにより令和元年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。22/23 シーズンは『サロメ』ヘロディアスの小姓役でも出演予定。二期会会員。



【セスト】金子美香(メゾソプラノ)

KANEKO Mika

東京音楽大学声楽演奏家コースを首席で卒業、同大学院声楽専攻修了。ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院マスタークラス修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。第 18 回奏楽堂日本歌曲コンクール第 3 位入賞。第 15 回日仏声楽コンクール第 2 位及び日本歌曲賞受賞。2008 年二期会『ワルキューレ』グリムゲルデでデビュー。10 年東京二期会『オテロ』エミーリア、同『魔笛』侍女Ⅲのほか、東京・春・音楽祭には 14 年『ラインの黄金』フロスヒルデ、15 年『ワルキューレ』シュヴェルトライテ、17 年『神々の黄昏』フロスヒルデ並びに第 1 のノルンで出演。18 年夏にはバイロイト音楽祭『ワルキューレ』グリムゲルデに出演という快挙を成し遂げた。オペラのほか、オーケストラコンサートや日本歌曲のリサイタルでも高い評価を得ている。平成 24 年度山口県芸術文化振興奨励賞受賞。新国立劇場では『ワルキューレ』グリムゲルデ、『カルメン』メルセデス、『さまよえるオランダ人』マリー(歌唱のみ)に出演している。二期会会員。



【クレオパトラ】森谷真理(ソプラノ)**MORIYA Mari**

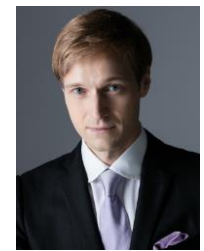
武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業、同大学院声楽専攻首席卒業後、渡米シマネス音楽院修了。世界各地のコンクールにて優勝、受賞歴多数。専属歌手を務めたリンツ州立劇場をはじめ、ウィーン・フォルクスオーパー、ライプツィヒ歌劇場など欧米の主要歌劇場で『マリア・ストゥアルダ』『椿姫』タイトルロール、『カルメン』ミカエラ、『トゥーランドット』リユーなどで活躍。2006年には『魔笛』夜の女王役でメトロポリタン歌劇場デビューを飾り、一躍注目を集めた。国内では14年びわ湖ホール『リゴレット』ジルダで日本でのオペラデビューを飾った後、東京二期会『ばらの騎士』元帥夫人、『サロメ』『蝶々夫人』『ルル』タイトルロール、びわ湖ホール『ローエン格林』エルザ、日生劇場『後宮からの逃走』コンスタンツェなどを演じ、卓越したテクニックと表現力で目覚ましい活躍を見せている。国内外の著名指揮者および主要オーケストラとの共演も多く、ベートーヴェン「第九」をはじめ、モーツァルト／ヴェルディ「レクイエム」等のソリストを務め、高い評価を得ている。19年には「天皇陛下御即位を祝う国民祭典」にて国歌独唱を務めた。小山評定ふるさと大使。とちぎ未来大使。下総皖一音楽賞受賞。新国立劇場では21年『カルメン』フラスキータ、22年『ばらの騎士』マリアンネ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』タイトルロールに出演した。

**【トロメーオ】藤木大地(カウンターテナー)****FUJIKI Daichi**

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。文化庁派遣芸術家在外研修でポローニャに留学後、ウィーン国立音楽大学大学院文化経営学修了。2011年、ローマ国際宗教音楽コンクールファイナリスト。12年、国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてオーストリア代表に2年連続で選出、世界大会ファイナリストとなりハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。13年、ポローニャ歌劇場のグルック『クレリアの勝利』マンニオでヨーロッパデビュー。同劇場にバッティステッリ『イタリア式離婚狂想曲』カルメロで出演。17年にはライマン『メデア』ヘロルドでウィーン国立歌劇場にデビュー。国内では主要オーケストラとの共演や各地でのリサイタルを重ね、サントリーホールサマーフェスティバル『リトゥン・オン・スキン』第1の天使／少年、東京文化会館の新作歌劇『400歳のカストラート』（企画原案、主演）、バハ・コレギウム・ジャパン『リナルド』タイトルロールなど、バロックからコンテンポラリーまで幅広く活躍している。新国立劇場へは03年『フィガロの結婚』ドン・クルツィオへ出演、カウンターテナーとして『夏の夜の夢』オーベロン、子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ『Super Angels スーパーエンジェル』アキラに出演している。21年、横浜みなとみらいホール「プロデューサー in レジデンス」の初代プロデューサー(2021-2023)に就任。みやざき大使。洗足学園音楽大学客員教授。

**【アキツラ】ヴァイタリ・ユシュマノフ (バリトン)****Vitaly YUSHMANOV**

サンクトペテルブルク生まれ。マリンスキー劇場の若い声楽家のためのアカデミーで学ぶ。ライプツィヒのメンデルスゾーン・バルトルディ音楽演劇大学卒業。在学中にバート・ヘルスフェルト・オペラ音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、ライプツィヒ・ゲヴァントハウスの「ニューイヤークンサート」に出演。2013年の秋以来度々来日し、オペラ、リサイタル、オーケストラとの共演などに出演。15年春より日本に拠点を移し、デビューアルバム『歌の翼に』、『Parole d'amore ~愛の言葉に』に続き『「ありがとう」を風にのせて～日本名歌集～』をリリース。17年にはびわ湖ホールオペラ『ラインの黄金』ドンナー、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2017、第2回オペラ歌手紅白対抗歌合戦に出演。18年は東京・春・音楽祭、ロシア・ナショナル管弦楽団『イオランタ』（演奏会形式）エブン＝ハキアに出演。19年は東京芸術劇場ほかの全国共同プロジェクト『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、ららら♪クラシックコンサート、第4回オペラ歌手紅白対抗歌合戦に出演。日本トスティ歌曲コンクール2015第1位及び特別賞、第14回東京音楽コンクール声楽部門第2位、第52回日伊声楽コンクール第1位及び最優秀歌曲賞受賞。新国立劇場へは21年『夜鳴きうぐいす』侍従、『イオランタ』エブン＝ハキアでデビューを飾った。

**【ニレーノ】村松稔之(カウンターテナー)****MURAMATSU Toshiyuki**

京都市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科、同大学院修士課程独唱科を首席で修了。ノヴァーラG.カンテッリ音楽院古楽声楽科で研鑽を積む。第20回ABC新人オーディション最優秀音楽賞、第12回千葉市芸術文化新人賞、第24回青山音楽賞新人賞、第13回東京音楽コンクール第3位等受賞。2017年度野村財団奨学生、19年度京都市芸術文化特別奨励生。これまでに藤花優子、伊原直子、寺谷千枝子、R.バルコーニの各氏に師事。17年三枝成彰『狂おしき真夏の一日』ユウキ役で好評を博し、現代歌曲を加えたプログラムで出演したラ・フォル・ジュルネTOKYO2018、20年の井上道義×野田秀樹『フィガロの結婚』ケルビーノ役のほか、最近ではジャズアレンジでの武満徹「SONGS」の録音に挑むなど、古楽の枠だけに留まらず幅広いレパートリー作りに取り組んでいる。NHK FM「リサイタル・ノヴァ」やABC放送(共演:大阪フィル)などのTV、ラジオへの出演のほか、国内主要オーケストラとの共演、日本ヘンデル協会『フラワーヴィオ』タイトルロール、A.ライマンの歌曲「カウンターテナーとピアノのための5つの歌曲」(日本初演)、バハ「カンタータ」、「ヨハネ受難曲」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」などのソリストを務める。新国立劇場初登場。



令和4年度(第77回)文化庁芸術祭主催公演
 新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ
 ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル

ジュリオ・チェーザレ

Georg Friedrich HÄNDEL / Giulio Cesare
 全3幕〈イタリア語上演/日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】2022年10月2日(日)14:00/5日(水)17:00/8日(土)14:00/10日(月・祝)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:27,500円・A:22,000円・B:15,400円・C:8,800円・D:5,500円・Z:1,650円

【前売開始】2022年8月7日(日)

※予定上演時間：約4時間15分(休憩含む)

指揮	リナルド・アレッシンドリーニ	ジュリオ・チェーザレ	マリアンネ・ベアーテ・キーランド
Conductor	Rinaldo ALESSANDRINI	Giulio Cesare	Marianne Beate KIELLAND
演出・衣裳	ロラン・ペリー	クーリオ	駒田敏章
Production, Costume Design	Laurent PELLY	Curio	KOMADA Toshiaki
美術	シャンタル・トマ	コルネーリア	加納悦子
Set Design	Chantal THOMAS	Cornelia	KANO Etsuko
照明	ジョエル・アダム	セスト	金子美香
Lighting Design	Joël ADAM	Sesto	KANEKO Mika
ドラマトウルク	アガテ・メリナン	クレオパトラ	森谷真理
Dramaturg	Agathe MÉLINAND	Cleopatra	MORIYA Mari
演出補	ローリー・フェルドマン	トロメオ	藤木大地
Revival Director	Laurie FELDMAN	Tolomeo	FUJIKI Daichi
舞台監督	高橋尚史	アキッラ	ヴィタリ・ユシュマノフ
Stage Manager	TAKAHASHI Naohito	Achilla	Vitaly YUSHMANOV
		ニレーノ	村松稔之
		Nireno	MURAMATSU Toshiyuki
合唱指揮	富平恭平		
Chorus Master	TOMIHIRA Kyohei		
合唱	新国立劇場合唱団		
Chorus	New National Theatre Chorus		
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団		
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra		
芸術監督	大野和士		
Artistic Director	ONO Kazushi		

主催……………文化庁芸術祭執行委員会/新国立劇場

Production of l'Opéra national de Paris

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/giulioesare/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* Z席 1,650円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引(50%)など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのお願い

https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

本公演の告知では、パリ・オペラ座公演の写真をご使用いただけます。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】

パリ・オペラ座公演より Photo: Agathe Poupeney